

接続表現「ばかりに」の意味分析

趙妍姍

本発表では、「郊外に家を建てたばかりに，往復 3 時間 20 分もかかる」のような原因・理由を表す「ばかりに」について，次の三つのことを述べる。

- ①「ばかりに」の後件は「本来なら生じなくてよい不必要なこと」というマイナスの結果であり，前件は「マイナスの結果をもたらす決定的要因」である。
- ②「ばかりに」の前件には「回避しようと思えば回避できた不必要なこと」という意味が含まれる。
- ③「ばかりに」は前件と後件に「不必要な（余計な）こと」という評価的意味を加える表現であり，それは「甘い物ばかり食べている」のような限定の「ばかり」が「事態の程度が一定の範囲に収まらずに過剰である」という意味を表すことと関係する。

「ばかりに」の前件は，後件に対する「唯一の原因」と説明されることがあるが，「ばかりに」と唯一の原因を表す「というだけ（程度）の理由で」は同義ではない。また，前田直子（1997）「原因・理由を表す「ばかりに」と「からこそ」（『東京大学留学生センター紀要』第 7 号）は，「ばかりに」の前件を「実現が期待されていなかった最低条件」と説明するが，それ以外に「回避しようと思えば回避できた不必要なこと」という意味を含むことも重要である。中里理子（1995）「だけに」「ばかりに」の接続助詞的用法について」（『言語文化と日本語教育』第 9 号）は，「ばかりに」の後件はマイナスの結果とは限らないとするが，そのように見える例を含め，「ばかりに」の後件は「本来なら生じなくてよい不必要なこと」というマイナスの結果と説明できる。「ばかりに」の評価的意味は，「ばかり」の限定の意味と直接結び付けて説明されることがあるが，それよりは，「ばかり」の「事態の程度が一定の範囲に収まらない」という意味と結び付けて説明するほうがよいと考えられる。